

小麦新品種「フクホコムギ」について

1 来歴及び育成経過

フクホコムギは、昭和44年農林省農事試験場において（ウシオコムギ，D，W，SeINa 71）Fを母とし、ヒヨクコムギを父として人工交配を行い、その後系統育種法により選抜固定を図ってきた。育種目標は早生，強稈，うどんこ病耐病性，多収品種の育成においた。昭和51年度より「関東89号」の系統名を付して，生産力及び各種特性を検討してきた。昭和54年「小麦農林124号」として農林登録し「フクホコムギ」と命名された。

本県においては，昭和51年度に配布をうけ奨励品種決定予備調査で検討し，54年度から生産力検定調査に編入し，併せて現地調査に供試して県下の地域適否を検討してきたもので昭和57年12月に本県奨励品種に採用された。

2 特性の概要

(1) 形態的特性

叢性は中間で，葉色は農林61号と同程度であるが，一穂粒数が多く1穂重が重い。穂数は農林61号より少ない。株の開閉は中であるが，農林61号よりやや開く。千粒重及び外観品種質はほぼ同程度である。

製粉歩留，粉の品質及び製めん適性は農林61号と大差ない。

(2) 生態的特性

播性程度はⅡの春播型品種で，農林61号と比べて，出穂期が3日，成熟期が4日程度早い早生種である。寒害による葉先枯は少なく，農林61号と同程度である。茎立期は農林61号と大差ない。耐倒伏性に優れている。うどんこ病の発生は少なく極めて強い。小麦萎縮病には弱い。収量性は，農林61号に比べ多収である。

3 試験成績

表-1 特性調査

品 種 名	比較 品種	播性の 程度	叢 性	葉 色	株の 開閉	芒 の		穂 型	稈 色	粒 形	粒 大	粒 色
						多少	長短					
フクホコムギ		Ⅱ	中	中	中	中	中	紡錘	褐	中～ やや長	中	赤
農林61号	比較	Ⅱ	やや 直立	中	中	中	中	紡錘	褐	中	中	赤

注 播性の程度は農水省農事試験場調査

表-2 生育観察及び生育調査

品 種 名	比較 品種	出穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 長	穂 数	一穂 粒数	倒 伏	寒 害	うどんこ 病	赤さび 病
フクホコムギ		4.29	6.16	90	9.1	458	39.2	2	1	0	1
農林61号	比較	5.2	6.20	98	9.1	501	31.7	3	1	1	1

注1 昭和51～56年の6ヶ年平均（1穂粒数は56年のみ）

2 10月24日播，畝巾60cm，播巾9cm，条播は種量0.4kg/a，a当り堆肥100kg，
N：0.6kg，P₂O₅：0.9kg，K₂O：0.8kg全量基肥施用

3 供試ほ場 表層多腐植質黒ボク土

4 倒伏，寒害，うどんこ病，赤さび病は

無：0，微：1，少：2，中：3，多：4，甚：5の基準による。

表-3 収量調査

品 種 名	比 較 品 種	子 実 重 kg/a							比較 比率 %
		51年	52年	53年	54年	55年	56年	平 均	
フクホコムギ		51.5	52.6	53.2	47.5	53.4	54.4	52.1	112
農林61号	比 較	41.4	47.1	56.6	45.8	41.1	48.4	46.7	100

表-4 品質調査

品 種 名	比 較 品 種	千粒重 ℓ 重 品 質		
		g	g	
フクホコムギ		30.6	756	4
農林61号	比 較	30.3	757	4

注1 品質は農水省栃木食糧事務所調査

2 品質は，上上：1，上下：2，中上：3，中中：4，中下：5，下：6

表-5 分折調査

品 種 名	原 粒		製 粉 歩 留 %	ミリング スコア	60%粉 灰 分 %
	水 分 %	硝子率 %			
フクホコムギ	12.4	8	65.3	76.8	0.50
農林61号	11.6	11	64.4	76.9	0.47

品 種 名	フアリノグラフ				アミログラフ	
	吸水率 %	生地形成 時 間 分	弱化度 B・U	パロリー メーター 値	最高粘度時 の温度 °C	最高粘度 B・U
フクホコムギ	65.0	4.2	85	52	85.8	330
農林61号	65.0	2.8	100	45	87.3	290

4 まとめ

(1) 本種の特性から県中南部地帯に適応する。

(2) 稈は強いが極端な多肥はさける。

（担当者 作物部 前波健二郎，鈴木一水，奥山隆治）
（協力者 大田原，市貝，鹿沼，足利農業改良普及所）